



R I. 第2620地区 静岡第2分区  
三島西ロータリークラブ

# 週報

第1953号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F  
TEL(055)976-6351 FAX976-6352  
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島  
TEL(055)984-0120  
会長 野田 和秀 幹事 平出 利之



広重版画より 三島 朝霧

## 第2016回例会

2014.3.6晴

### 司 会

登崎久夫君

### 国歌斉唱

四つのテスト

### ロータリーソング

「奉仕の理想」  
指揮 澤村康子君

### 会長挨拶

会長 野田和秀君

皆様こんにちは。本日は伊藤アシスタント・ガバナーはじめビジターの皆様、ようこそ当クラブへお越しくださいませ有難うございます。

いよいよ3月に入り、PETSが始まります。この時期が来ますと次年度の準備が始まり、気分的に大分らしくなり、気が抜けたからでしょうか、お恥ずかしいながら、今日の理事会に遅刻をしてしまいました。加茂ICから伊豆縦貫道に乗るのに、いつもの習慣で沼津方面に乗ってしまいハッと気が着いたが後の祭り、次の萩ICでリターンしてきたためです。

ところで、今日はこの前皆様で紹介しました「ロータリーこぼれ話」の中で取り上げられています、ロータリーにおける点鐘について話をさせていただきます。日本では、クラブ例会、IM、地区大会すべてにおいて、開会、閉会時に点鐘が厳格に守られています。でも、国際大会では、開会宣言で始まり、蛍の光で終わる場合があるようですし、ヨーロッパや東南アジアでは、何時始まって、何時終わるのかさっぱり判らない例会もめずらしくないとのこと、アメリカでは、点鐘するクラブもあれば、法廷やオークションで使われる木槌で木の板をたたく光景がよく見られるそうです。それも、開会、閉会時ではなく、スピーチを始める前などに注意を喚起するために使うことが多いようです。そもそも点鐘は、コロンブスの頃の大航海時代の慣習からきているようでして、帆船時代の船乗りは4時間ごとの交代勤務で30分毎に点鐘し時間を知らせたそうです。点鐘

がそんな習慣に由来しているとなると、私などは、クラブ会長よりSAAが担当した方が理にかなっているのでは、と思ってしまう。でも日本の現状の点鐘は、形式重視の日本人には、変えがたいでしょうね。日本の常識が必ずしも世界の常識ではないことの一例として、受け止めておくだけに致しましょう。最後に点鐘に関する川柳を引用させていただいて、会長挨拶と致します。

「ロータリー歌う前から鐘一つ」

### “こんにちは、ようこそ”

ビジター 伊藤雅之アシスタントガバナー(長泉RC)  
望月義明AG事務局(長泉RC)  
石井司人君(せせらぎ三島RC)

### 出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席率
前々回	45/48	93.75%	46/48	95.83%
今回	40/46	86.96%	会員総数	53名

欠席者 大畑君、勝間田君、窪田君、鈴木(正)君、長田君、花房君

### 幹事報告

幹事 平出利之君

- ①アシスタントガバナーの伊藤さんよりIMの時のDVDを戴きました。
- ②3月16日にPETS 浜松で開催
- ③3月20～23日、苗栗RC43周年訪問

2013～2014年度  
国際ロータリー会長  
ロンD.バートン

ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を

## おめでとう

奥様誕生日 千葉君  
結婚記念日 米山君、矢岸君

## スマイルボックス

- ◆遠藤(真)君、本日は楽しい卓話です。ロータリーの友情を大切にしてください。友情とはいねむりです。
- ◆Cテーブル、先週Cテーブル会を開きました。リクエストに応じて、ふぐを突っつきながらのテーブル会は、話題豊富で盛り上がりました。会長、幹事さんご出席ありがとうございました。残金をスマイルします。

## アシスタントガバナー挨拶

静岡第2分区アシスタントガバナー  
伊藤雅之君

1月25日の、静岡第2分区のIntercity Meetingに三島西RCより多数の会員の皆様にご出席頂き、心より感謝申し上げます。各クラブ活動紹介では、いろいろお骨折りをいただきましたが、大変評判がよく多くの方から、是非またやってほしいとのご意見をいただきました。(中には3年に一回やれという激励もありました。)クラブ活動紹介という、とかく固くなりそうなテーマですが、スライド上に知っている顔が沢山見られて、いっぺんに会場が和みましたこと大変良かったと思います。

2月8日、9日に地区大会には、大雪の中、多くの皆様のご参加ありがとうございました。山梨地区はほとんど、出席できないという、恐らくRI2620地区初めてのことだったと思いますが、大会そのものは志田ガバナーのカラーがよく出たいい大会だったと思います。志田ガバナーが『旅』というテーマで、各クラブ訪問時の印象、エピソードなどを話されました。話に熱が入ったせいか、山梨地区の話題で盛り上がり、静岡第二分区まで来たときには、時間がなくなり、三島西RCまで到達しませんでした。もし到達していれば、台湾から来られた、Musicさんこと、劉RI会長代理の前で、三島西RCと台湾のRCとの友好関係について話されたと思います。残念です。

(御願ひ)

### ①会員増強、維持について

現在、2620地区は約70人の会員が増えています。しかしながら例年、年度末になると80名以上の方が退会されています。そうならないように、会長、幹事、会員維持増強委員長はじめ皆様のご協力をお願い致します。

### ②クラブ定款、細則の見直し

今年は規定審議会が開かれ、いくつかの規定の変更が行われました。その中で定款、細則の見直しが必要なものもいくつか出てまいりました。各クラブに於かれまして是非、ご確認をお願い致します。

以上2点の御願ひで4月1日、志田ガバナーが静岡第2分区を訪問されます。当日は、伊豆中央RCに7クラブの会長、幹事の皆さんにお集まり頂き、志田ガバナーの話をお聞かせます。是非その折、各クラブのご意見をいただければ幸いです。

## 卓話

### 「給油中はエンジン停止」を守りましょう

遠藤真道君

サービスステーション(SS:給油所)でガソリンなどを給油する際、事故を防止するための基本的な安全対策として、フルサービスのSSの場合、タバコなどの「火気厳禁」はもちろんのこと、「給油中のエンジン停止」「ガソリンの容器への注入禁止」があげられます。さらにセルフサービスのSSでは、給油前に自動車の金属部分や計量機の静電気除去シートに触れるなどして「静電気除去」を必ず行わなければなりません。

こうした注意事項の中でも、最近とくに軽視されがちなのが「給油中のエンジン停止」といわれます。運転者の中には、フルサービスのSSで、従業員にエンジンの停止を注意されても「無視する人」や、セルフのSSではエンジン停止など「全く行わない人」が見受けられます。またSS側でも、客離れを恐れて、エンジン停止を注意せず、そのまま給油作業を続けるケースもあるようです。しかしガソリンの場合、引火点はマイナス40℃、発火点は300℃で、消防法上の危険物に指定されています。つまり、ガソリンはちょっとした静電気や火気で容易に引火する可能性が高いのです。エンジンをかけたままでは、マフラーは非常に高温の状態となり、引火の危険性がより高くなります。万が一、給油中にガソリンが給油口から吹き出し、マフラーに付着すれば、引火して火災となることは十分ありえます。

「給油中エンジン停止」は消防法でも定められている規則です。万が一の事故を未然に防ぐためにも、必ず守るようにならねばなりません。

(週報担当:川名正洋)